

おしゃべり AI「Cotomo」を開発する Starley、東北大学スマート・エイジング学際重点研究センターと共同研究を開始。AI とのおしゃべりが、シニアの認知・心理機能に与える影響の解明を目指す。

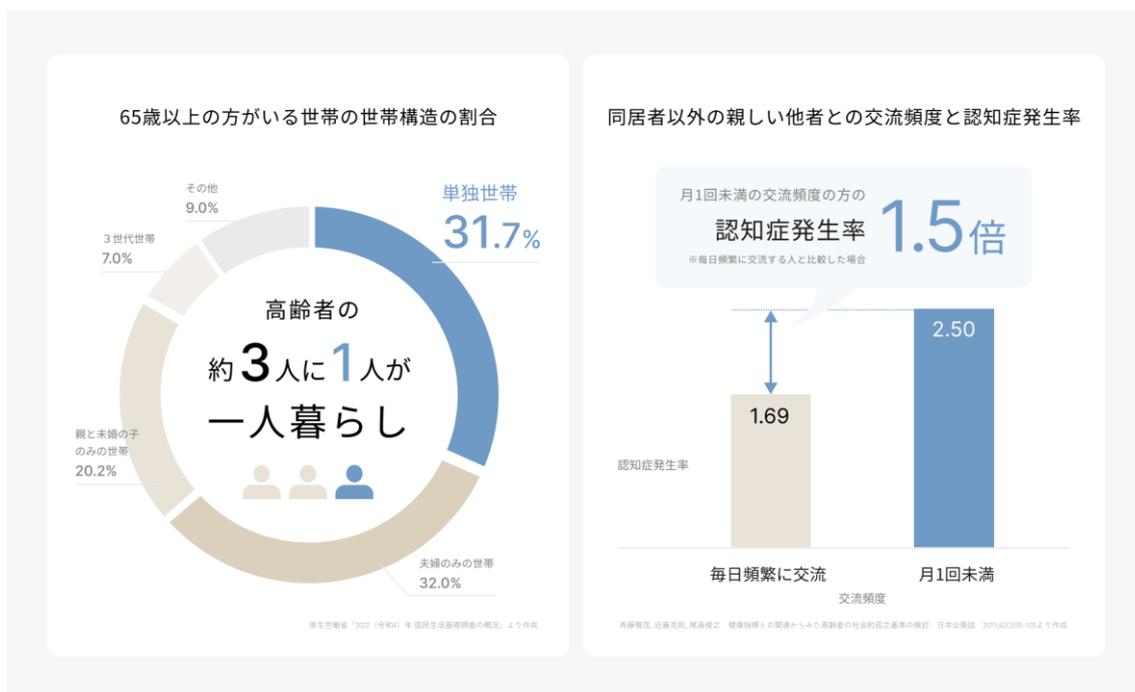
2024年9月20日



<https://starley.co.jp/s>

音声会話型おしゃべり AI アプリ「Cotomo」を開発する Starley 株式会社は、東北大学スマート・エイジング学際重点研究センターとの共同研究の開始します。Starley 株式会社は AI とのおしゃべりによるシニアの認知症予防の実現と、その家族とのコミュニケーションの活性化を目指し、「Cotomo」の技術を活かした新たなサービス（以下、「新サービス」）を開発しました。本共同研究において、東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター瀧靖之研究室は新サービスの使用が認知・心理機能に与える効果を検証するため「思い出話ができる音声会話型 AI の使用が認知・心理機能に与える効果に関する予備研究」を実施いたします。

シニアの独居率の高さ、交流頻度と認知症発症リスクの関係に着目。AI とのおしゃべりによる効果に関する共同研究を実施。



日本における高齢化の進行により、65歳以上の3人に1人が一人で暮らす一方（※1）、他者との交流が月一回未満だと、毎日交流のある人に比べて認知症リスクが1.5倍高いというデータもあります。（※2）

また、認知症予防に関する研究は数多く行われておりますが、その中に記憶を呼び起こすことで脳の活性化を図る方法があります（※3）。

シニアが、思い出話などを楽しく会話する機会を持ち、それが家族の方や社会とのつながりになっていると実感できれば、孤独の解消や認知症予防になる可能性があります。

そこで、Starley がすでにリリースしている「Cotomo」の技術を応用し、シニアとAIのおしゃべり体験が認知症予防にもたらす効果について、東北大学スマート・エイジング学際重点研究センターと共同研究を実施いたします。

出典

※1:

国民生活基礎調査

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html>

※2

斉藤雅茂, 近藤克則, 尾島俊之「健康指標との関連からみた高齢者の社会的孤立

基準の検討」日本公衛誌 2015;62(3)95-105

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jph/62/3/62\\_14-071/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jph/62/3/62_14-071/_pdf)

※3:

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター「あたまとからだを元気にする MCI ハンドブック」P.43

<https://www.mhlw.go.jp/content/001100282.pdf>

## 共同研究の概要

AI 技術を活用したシニア向けの対話型認知症予防サービスの、プロトタイプを開発しました。このサービスは、AI とシニアが対話を行うことで、過去の思い出や日常生活の出来事を思い出させ、脳の健康維持や認知症予防に役立つ可能性があります。本プロジェクトは、国立大学法人東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター（所在地：〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町4-1）主導の下、共同研究を行います。

共同研究では被験者を選定し、週 2 回 30 分ずつ、3 ヶ月間サービス利用していただいた上で、サービス利用前後の認知・心理検査の結果を比較することで効果を検証します。

### 【問い合わせ先】

（研究に関すること）

Starley 株式会社 サービスサイト：<https://starley.co.jp/s>

東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター

教授 瀧 靖之

TEL:022-717-8582

Email: [nmr\\_office@grp.tohoku.ac.jp](mailto:nmr_office@grp.tohoku.ac.jp)

（報道に関すること）

東北大学加齢医学研究所

広報情報室

[TEL:022-717-8443](tel:022-717-8443)

Email: [ida-pr-office@grp.tohoku.ac.jp](mailto:ida-pr-office@grp.tohoku.ac.jp)